

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 7 部門第 3 区分

【発行日】平成 20 年 5 月 1 日 (2008.5.1)

【公表番号】特表 2008-507860 (P2008-507860A)

【公表日】平成 20 年 3 月 13 日 (2008.3.13)

【年通号数】公開・登録公報 2008-010

【出願番号】特願 2007-513159 (P2007-513159)

【国際特許分類】

H 0 4 L 27/38 (2006.01)

H 0 4 L 27/01 (2006.01)

H 0 4 L 27/06 (2006.01)

H 0 4 B 7/005 (2006.01)

【F I】

H 0 4 L 27/00 G

H 0 4 L 27/00 K

H 0 4 L 27/06 C

H 0 4 B 7/005

【手続補正書】

【提出日】平成 20 年 3 月 13 日 (2008.3.13)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

配位図空間における受信信号点のシーケンスを受け取るための入力を提供し、
前記受信信号点の分布の関数としてノイズ強度推定値を決定し、ここで、配位図空間の異なる領域には異なる重みを与えられており、
前記ノイズ強度推定値の関数として等化器ロックを判定する、
ことを含むことを特徴とする方法。

【請求項 2】

前記配位図空間の外側領域が内側領域よりも大きな重みを与えられることを特徴とする、請求項 1 記載の方法。

【請求項 3】

請求項 1 記載の方法であって、ノイズ強度推定値を決定する前記ステップが：
前記配位図空間の一つまたは複数の内側領域にはいる受信信号点には 0 の重みを与える、
ステップを含むことを特徴とする方法。

【請求項 4】

請求項 3 記載の方法であって、等化器ロックを判定する前記ステップが：
決定されたノイズ強度推定値がある閾値より小さければ、等化器ロックが生じていると判定する、
ステップを含むことを特徴とする方法。

【請求項 5】

前記外側領域の少なくとも一つが前記配位図空間の角領域であることを特徴とする、請求項 3 記載の方法。

【請求項 6】

請求項 1 記載の方法であって、等化器ロックを判定する前記ステップが：

前記ノイズ強度推定値から信号対雑音比（SNR）推定値を決定し、該SNR推定値がある閾値より大きければ、等化器ロックが生じていると判定する、ステップを含むことを特徴とする方法。

【請求項 7】

前記配位図空間がM-VSB（残留側波帯）シンボル配位図であることを特徴とする、請求項 1 記載の方法。

【請求項 8】

前記配位図空間がM-QAM（直角位相振幅変調）シンボル配位図であることを特徴とする、請求項 1 記載の方法。

【請求項 9】

前記領域の少なくとも一つが前記配位図空間の角領域であることを特徴とする、請求項 1 記載の方法。

【請求項 10】

受信信号を処理し、該受信信号から導出される信号点の関数として等化器ロックを判定するデコーダと、

前記デコーダが前記受信信号点の配位図空間における分布の関数として決定されるノイズ強度推定値の関数として等化器ロックを判定するよう前記デコーダを制御するプロセッサとを有する受信機であって、前記配位図空間の異なる領域には異なる重みを与えられていることを特徴とする、受信機。

【請求項 11】

前記配位図空間の外側領域が内側領域よりも大きな重みを与えられることを特徴とする、請求項 10 記載の受信機。

【請求項 12】

請求項 10 記載の受信機であって、前記デコーダが、前記配位図空間の一つまたは複数の内側領域にはいる受信信号点には重みを与えないことを特徴とする受信機。

【請求項 13】

請求項 12 記載の受信機であって、前記デコーダが、ノイズ強度推定値についての値を決定し、その決定された値がある閾値より小さければ等化器ロックが生じていると判定することを特徴とする受信機。

【請求項 14】

前記領域の少なくとも一つが前記配位図空間の角領域であることを特徴とする、請求項 12 記載の受信機。

【請求項 15】

請求項 10 記載の受信機であって、前記デコーダが前記ノイズ強度推定値から信号対雑音比（SNR）推定値を決定し、該SNR推定値がある閾値より大きければ、等化器はロックされていると判定することを特徴とする受信機。

【請求項 16】

前記配位図空間がM-VSB（残留側波帯）シンボル配位図であることを特徴とする、請求項 10 記載の受信機。

【請求項 17】

前記配位図空間がM-QAM（直角位相振幅変調）シンボル配位図であることを特徴とする、請求項 10 記載の受信機。

【請求項 18】

前記領域の少なくとも一つが前記配位図空間の角領域であることを特徴とする、請求項 10 記載の受信機。